

フォーラム「まち・みち・たてものを、愛でる・いじる・生かす」は、「美術と街巡り・浦和」との連携事業で、昨年からのシリーズの2回目として位置づけるものです。

昨年(2022年)4月から8月の前後期にわたり、うらわ美術館にて『芸術家たちの住むところ』という展覧会が開かれました。うらわ美術館開館22周年と銘打っていますが、これは本来20周年記念として準備されたものが、コロナ禍によって中止されたものでした。それだけに、質・量ともに充実した展覧会でしたが、注目すべきは、表題にあるように「住むところ」＝「浦和のまち」を通奏低音のように流れるテーマとしていたことでした。その展覧会の図録(右下画像)において、『芸術家たちが集った浦和の地について一戦前期を中心に』という巻頭文を執筆されたのが島田有美子さんでした。今回はその島田さんを中心に、このまちの文化について考えます。(青山恭之)

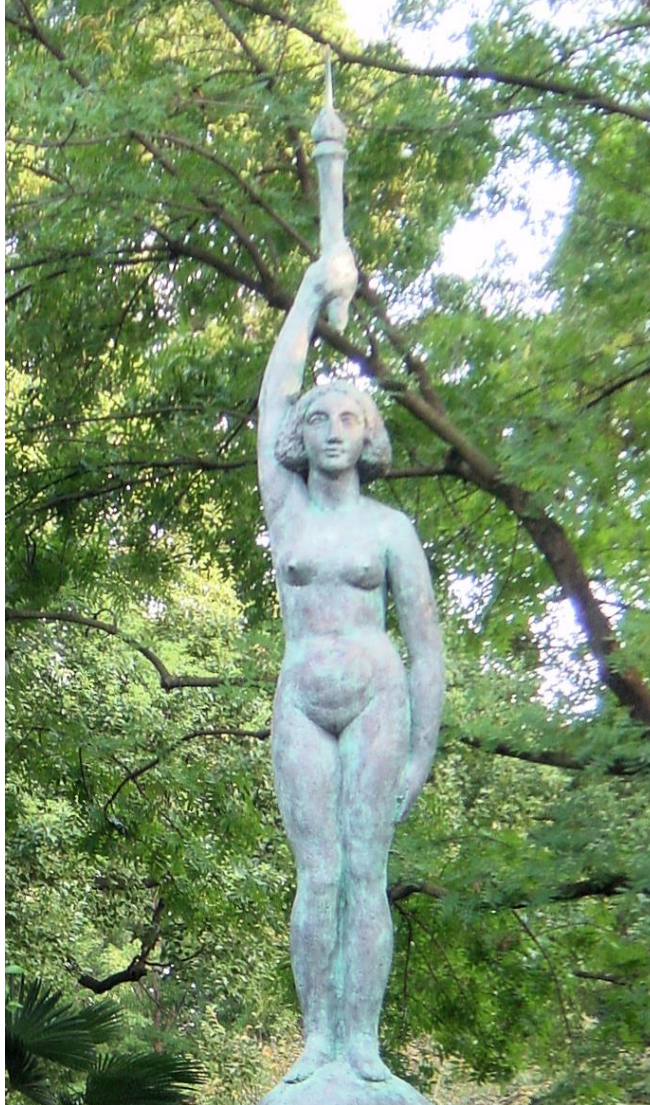
● 講演者プロフィール 島田有美子



1996年よりうらわ美術館(準備室含)、さいたま市立博物館、さいたま市立漫画会館学芸員として2019年まで勤務。展覧会「人間国宝の工芸 増田三男・内藤四郎・富本憲吉一身边から生まれる美」「本という美術一大正期の装幀から現代のオブジェまで」「創刊号のパノラマ近代日本の雑誌・岩波書店コレクションより」「足踏みオルガンがやってきた!ー唱歌から浪花節まで・うたをめぐる近代史」「盆栽村の楽天に出会う1・2」「えっ?『授業』の展覧会ー図工・美術をまなび直す」「縫いーその造形の魅力」「素描礼讃ー岸田劉生と木村莊八」等を企画・実施。

県立歴史と民俗の博物館に移設された女神の像とその解説文

〈この像は、大正15年(1926)11月、浦和市の旧埼玉会館の時計塔上に設置されましたが、当時の風潮として、会館にふさわしくないとの理由で取り払われました。それを時の県会議員 加藤睦之介氏が譲り受け、のちに大宮市の清水園に移され、保存されてきました。昭和52年1月、同園の清水常夫氏の好意により埼玉県に寄贈されたので、当時の歴史的資料としてここに移設したものです。〉



フォーラム参加申込方法

入場無料 定員50名(事前申込優先)

申込受付期間; 2023年2月10日(金) 9:00から 定員に達した時点で締め切らせていただきます。

● 申込みフォームでのお申込み

QRコードよりご利用ください。



● メールでのお申込み

下記①~⑥を明記のうえお申込みください。

①氏名(漢字) ②氏名(フリガナ) ③電話番号 ④メールアドレス ⑤人数
⑥同行者氏名

送付先: info-kaikan@saf.or.jp ※件名に「フォーラム参加申込」とお書きください。

● 窓口でのお申込み

埼玉会館B1F受付にて、申込用紙にご記入ください。 受付時間: 9:00~19:00 (休館日を除く)

定員に空きがある場合は、当日のご参加も受付します。定員に達した場合は埼玉会館HPでお知らせします。

- ※ 感染症の拡大状況により、開催内容を変更する場合があります。最新情報は、埼玉会館ホームページをご覧ください。
- ※ 37.5度以上の発熱がある方、体調が優れない方は、ご来場をお控えください。
- ※ ご来場の際は、マスクの着用、手指消毒、検温のご協力をお願いします。



埼玉会館 SAITAMA HALL

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4

お問合せ Tel:048-829-2471(代)

(休館日を除く9:00~19:00)

Mail ; info-kaikan@saf.or.jp

<https://www.saf.or.jp/saitama>

電車でのアクセス JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線・湘南新宿ライン 浦和駅(西口)下車 徒歩6分